

平成27年ホヤ類調査結果速報 No. 1

平成27年7月27日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

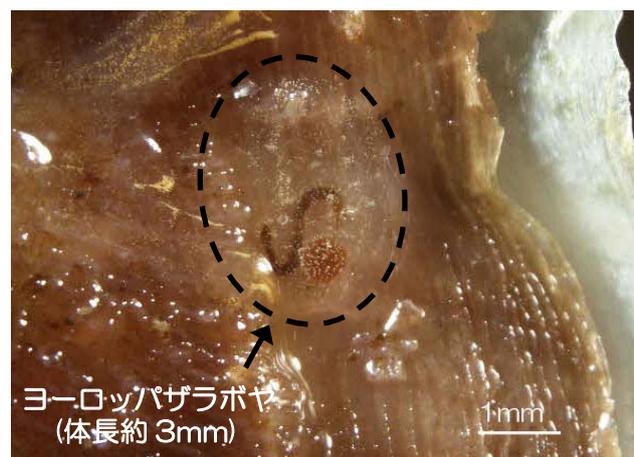
【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

7月21日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物および浮遊幼生の調査を行いました。

結果概要

- 耳吊りホタテガイ上に、多数のヨーロッパザラボヤの付着が確認されました（図1）。付着しているヨーロッパザラボヤの平均体長は2.0mmでした。また、肉眼では識別できない個体がほとんどです（図1、図2）。
- 付着個体数は、ホタテガイ1枚あたり32.7個体と多く、6～7月にかけて付着したとみられます（表1、図3）。
- ヨーロッパザラボヤの浮遊幼生の出現も確認されました（図4-2）。今後、浮遊幼生の出現が続くと見込まれます。
- 今年は、ヨーロッパザラボヤの付着数の増加が早く、付着重量の増加も早くなると見込まれます（図3）。今後の水産試験場や水産技術普及指導所の調査結果に注意してください。

図1 耳吊ホタテガイ（左）とヨーロッパザラボヤ（右）平成27年7月21日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・吉田
TEL：0138-83-2893 FAX：0138-83-2849

1：耳吊りホタテ貝付着物調査

〔調査月日：7月21日、調査場所：八雲沖 水深約30m、上中下層 各5枚〕

ホタテガイを上層、中層、下層ごとに5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を採取しました。多数のヨーロッパザラボヤの付着が確認されました（図1、表1）。ヨーロッパザラボヤの平均個体数はホタテガイ1枚あたり32.7個体、平均サイズは2.0mmと微小な個体を中心です（図2）。6～7月に多くの個体が付着したと見られます。今年は、過去5年のデータと比較して、個体数の増加が早く、付着重量の増加も早まると考えられます（図3）。

表1 付着生物調査結果（八雲地区：平成27年7月21日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	14.3g	9.9g	4.8g	9.7g
ヨーロッパザラボヤ	0.1g未満	0.1g未満	0.1g未満	0.1g未満
その他	14.3g	9.9g	4.8g	9.6g
ヨーロッパザラボヤ個体数	31.2個体	26.0個体	40.8個体	32.7個体
平成26年7月（H26.7.24）の個体数	2.4個体	11.0個体	14.8個体	9.4個体
平成25年7月（H25.7.16）の個体数	0.0個体	2.0個体	6.6個体	2.9個体
平成24年7月（H24.7.17）の個体数	0.4個体	0.8個体	1.6個体	0.9個体

図2.ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：平成27年7月21日）

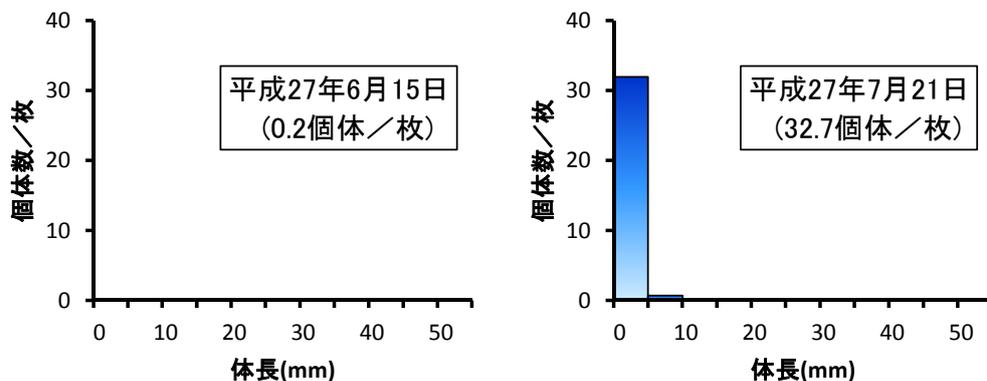
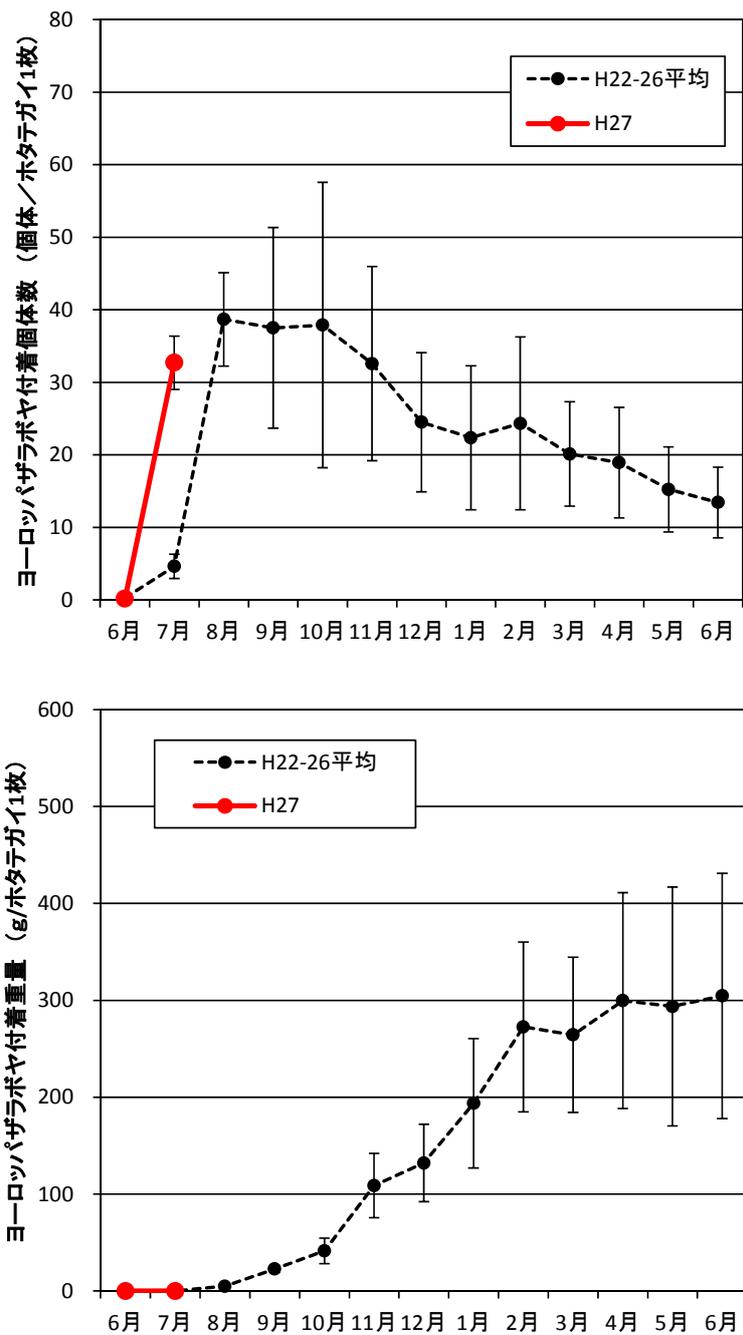


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。H22～26のデータでは、噴火湾でのヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着は7～10月が中心となっています。付着重量は10月～翌2月にかけて急激に増加します。今年度は、過去5ヶ年と比べて、6～7月の個体数の増加数が多く、付着が早く始まったと考えられます。付着が早い場合、重量の増加も早くなります。今後の付着状況の変化に注意が必要です。

2：浮遊幼生調査結果

2-1. 八雲地区（八雲漁港沖合）調査結果

〔調査月日：平成 27 年 7 月 21 日、調査場所：八雲沖水深 17m、水深 32m、水深 40m〕

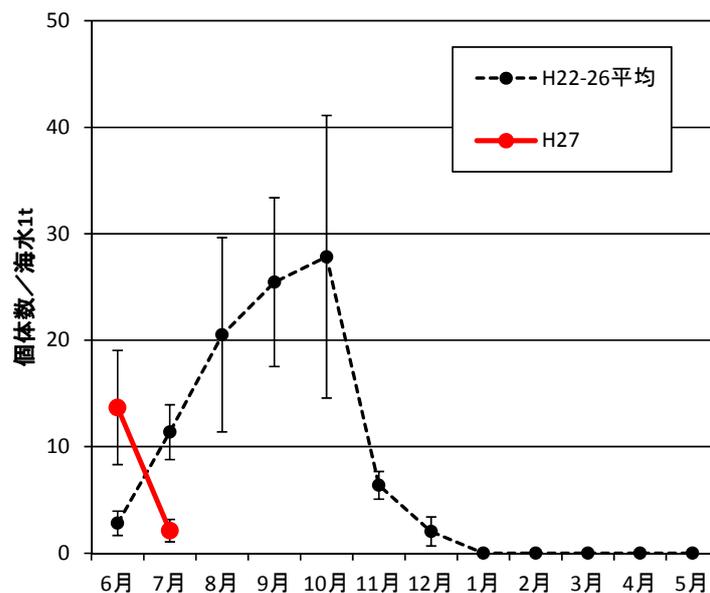
ヨーロッパザラボヤの幼生(図 4-1)は 3 地点の平均で海水 1t あたり 2.1 個体でした(図 4-2)。先月(6 月 15 日)の調査では、海水 1t あたり 13.7 個体でしたので、浮遊幼生密度は、低下しています。しかし、過去のデータから、今後も、浮遊幼生の出現は続くと見込まれます。

図 4-1.ヨーロッパザラボヤ幼生の形態



水温 20℃の条件で、ヨーロッパザラボヤの卵は受精後、約 14 時間で孵化します。図 4-1 は 20℃条件で受精から 22 時間後のヨーロッパザラボヤの浮遊幼生です。ヨーロッパザラボヤの浮遊幼生期間は短く、室内実験では水温 20℃の条件で、孵化から 6 時間後(受精から 20 時間後)には、基質に付着して変態を始める個体が見られます。

図 4-2.ホヤ幼生出現状況の経年比較（八雲地区）



(参考) 噴火湾の「ザラボヤ」について

平成 20 年以降、噴火湾の垂下養殖ホタテガイに大量に付着しているホヤ(通称「ザラボヤ」)は、外来種ヨーロッパザラボヤであることが判明しています。ヨーロッパザラボヤの特徴等については、以下の資料を参考としてください。

- ・金森誠：噴火湾のザラボヤの正体—外来種ヨーロッパザラボヤ—(試験研究は今 No.707)
- ・金森誠・馬場勝寿・長谷川夏樹・西川輝昭：外来種ヨーロッパザラボヤの生物学的特徴および簡易識別、同定について(北海道水産試験場研究報告 81：151-156)
- ・金森誠・馬場勝寿・近田靖子・五嶋聖治：北海道における外来種ヨーロッパザラボヤの分布状況(日本ベントス学会誌 69(1)：23-31)